

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

4月上旬、大町市内で開催された会議に出席する。久しぶりに顔を合わすメンバー、当然話題が新型コロナウイルスの影響による近況だ。大

町市・松川村などコロナワクチン接種券を受け取り、申し込みを済ませた者も。接種はまだ先なのだが、安心感漂う雰囲気もうらやましくなっています。

厚生労働省は、今月新型コロナウイルス感染症拡大に関連した解雇や雇止めが、東京や大阪などの大都市圏を中心に累計10万人を超えたと発表。新型コロナウイルスの「第4波」の様相が、全国で日増しに鮮明になってきている。また世界各国からは、コロナによる経済疲弊の情報も伝わってくる。経済が疲弊した中で、自国民を守る動きも聞こ

え、食料輸出に対する規制強化を強める報道も多くなってきた、食料需給率の低い日本では輸入食料が激減したらと考えたら、今からでもできる事を取り組んでほしいと願っています。

日々不安だからこそ、世界で活躍する日本人の活躍を応援しよう

で、137歳の豪快な一発。多くの部門で、大リーグの記録を塗り替えられるのではと注目を浴びている。また競泳の東京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権での池江璃花子選手。2019年2

日々不安をかき立てる情報の中、スポーツ界からうれしい情報が続く。米大リーグのエンゼルスの大谷翔平選手。「5番・投手」で先発し、投球すれば約163km/hの剛速球、打てば自身最速の打球速度

持ちが晴れない日々だからこそ、活躍する姿が眩しく伝わってくるのだろう。「大谷・池江病」になったかのようになり、二人の情報に一言一憂してしまう自分の心情はコロナ禍のためなのだろうか。

月に白血病を公表し闘病を経て、20年8月に実戦復帰にも驚かされたが、今回派遣標準記録を突破して代表入りした。まるで2人も、漫画の世界から現実の世界に目覚めたヒーローのようだ。気

9日夕方からの横殴りの降雪、翌日早朝には里の雪景色に驚かされる。今年も異常気象や自然災害には悩まされるのだろうか。明治44年8月8日午後3時ごろ、小谷村神田山が突然崩れ23人が亡く



なった。発生当時、連日快晴が続いていたという。昭和52年に現場を訪れた作家の幸田文さんは、衝撃を受けて雑誌「主婦の友」に「崩れ」と題して連載を続け「土砂崩壊」の危険

を訴えた。その功績を讃えた幸田文学碑が、今も世界共通語の「SABO」の必要性を訴えている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

畑作も始まった。今からでも「農のある暮らし」を身に付けてみませんか